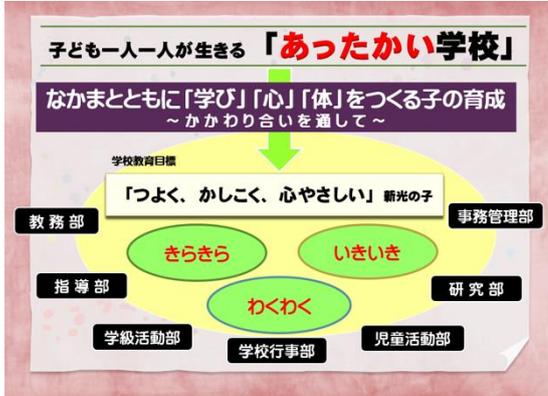


札幌市立新光小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.shinko-e.sapporo-c.ed.jp>)

1 学校の実態



本校では今年度の重点目標として「なかまとともに「学び」「心」「体」をつくる子の育成」を目指し、「かかわり合い」に重点を置いた教育活動の展開に努めている。特に、今年度の道徳教育においては、札幌市研究開発事業研究推進校の取組や、道徳の学習のスタンダードを確立するための1年間の取組を通して、道徳教育の要となる「道徳の時間」の学習展開や教育課程への位置付け、評価方法等について研究を深めてきた。日々の教育活動の中での道徳の学習の実践に加え、こういった取組を通じた研修を重ねることで、本校の目指す「つよく、かしこく、心やさしい新光の子」の育成を具現化できると考える。

子ども一人一人が生きる「あったかい学校」

わくわく

豊かな感性をもち、相手を尊重し、思いやりのある子ども

- ・ 明るい挨拶
- ・ **道徳教育の充実**
- ・ 安心できる環境づくり
- ・ 同学年・異学年とのかかわり

きらきら

考えを交流し、粘り強く学び続ける子ども

- ・ 基礎基本の定着
- ・ 伝え合う力を伸ばす
- ・ 意欲と自信を高める

いきいき

強い体で元気に遊び、困難に立ち向かう子ども

- ・ 体力向上の環境づくり
- ・ 健康で安全な生活づくり

<新光スタンダードの確立>

○道徳の時間で目指す授業像の確認

- ・ 研究部による提案授業
- ・ 学習展開、評価等の研修

○学校公開日での一斉道徳授業

- ・ 札幌市の「命を大切に作る週間」との関連
- ・ 学年研修での教材研究
- ・ 保護者、地域の方への積極的な公開

○来年度に向けての体制整備

- ・ 教育活動に合わせた年間指導計画の整備
- ・ 全校で一貫した評価方法の検討

道徳の学習の日々の積み上げ

<札幌市研究開発事業の取組>

○発達段階に合わせた学習展開の検討

- ・ ブロック学年で学習展開を検討
- ・ 授業者以外の教員による追試

○道徳部会の設置

- ・ 部会での教材研究、板書構成の検討
- ・ 学級の実態に応じた道徳の学習の位置付け

○授業後の学習会への参加

- ・ 課題探究的な道徳の学習展開の構想
- ・ 教科書の教材の活用方法
- ・ 評価方法の確認

「つよく、かしこく、心やさしい」 新光の子

地域の特徴

- ・ 周辺は住宅地で、大型店舗や大型店も多く、車の通行も多い。新たな住宅も増えたが、学級数は減少傾向にある。
- ・ 地域の町内会などの活動が活発で、地域住民の学校への関心も高く、学校の教育活動にも協力的である。

児童の実態

- ・ 明るく素直で、何事にもまじめに取り組む。
- ・ 積極的に物事に取り組む子どもが多いがやや粘り強さに欠ける面がある。
- ・ 「発達障がい」がある児童や外国から来た児童への適切な対応に迫られている。

教師保護者の願い

- ・ 自分で考え、粘り強く取り組む子どもの育成
- ・ 人とのよりよいかかわりを大切にし、互いに高めあおうとする子どもの育成
- ・ 基礎基本の確かな定着

学校教育目標 『つよく、かしく、心やさしい新光の子』

- 健康な体で困難に立ち向かう子
- 本物をもとめて粘り強く学び続ける子
- 相手を尊重し思いやりのある子

日本国憲法
教育基本法
学校教育法
学習指導要領
札幌市学校教育の重点

目指す学校像

子ども一人一人が生きる 『あったかい学校』

道徳教育の重点目標

- 生命あるものすべてのものを大切にしようとする心や他人を思いやる心、美しいものや自然に感動する心を育て、豊かな体験を通して児童の内面に根ざした道徳性を養う。
- 規範意識を日常的に育てる指導を大切にし、心身の健康的な保持増進に努める。
- 自ら課題を見つけ、積極的に取り組み、粘り強くやり遂げる精神を育て、自己の生き方についての考えを深め、よりよい自分を目指し主体的に未来を拓く子どもを育てる。
- 多様な個性や生き方に触れる中で、互いに認め合う場を設け、自分のよさを伸ばそうとする意欲を引き出す。

各学年の重点目標 全学年重点指導内容

低 学 年	中 学 年	高 学 年
<ul style="list-style-type: none"> ○健康や安全に気を付け、物や金銭を大切に、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 ○自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う。 ○善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしない。 ○大きな声で気持ちのよいあいさつをする。 ○身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。 ○生きることを喜び、生命を大切にすること。 ○約束やきまりを守り、みんなで使う物を大切にすること。 <p>*あいさつなどの基本的な生活習慣・善悪の判断・約束やきまりを守る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をする。 ○自分でやろうと決めたことは、粘り強くやり遂げる。 ○礼儀の大切さを知り、誰にでも心のこもったあいさつや行動をする。 ○相手のことを思いやり、進んで親切にする。 ○友達と互いに理解し、信頼し助け合う。 ○生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にすること。 ○約束や社会の決まりを守り、公德心を持つ。 <p>*集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力して助け合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○生活習慣の大切さを知り、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける。 ○より高い目標を立て、勇気と希望をもってくじけないで努力する。 ○時と場をわきまえ、礼儀正しく、真心のこもった言動をする。 ○誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。 ○生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。 ○公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切に、進んで義務を果たす。 ○身近な集団に進んで参加し、自分の役割を自覚し、協力して主体的に責任を果たす。 <p>*法やきまりの意義を理解すること、相手の立場の理解と支え合い、集団の一員としての役割と責任を果たす。</p>

各 教 科

国語	・ 思考力や想像力を養い、伝え合うことを大切にする。 ・ 豊かな心情を理解する。
社会	・ 公民的資質を高め、社会の一員としての自覚を養う。
算数	・ 筋道を立てて考える力を育てる。
理科	・ 自然を愛し、生命を大切にすることの心情を養う。
生活	・ 動植物の生命観、成長観を養い、自然の不思議さや素晴らしいさに気付く。
音楽	・ 音楽的情操を高め、豊かな感性を養う。
図工	・ 美的な価値に気付き、美しいものを味わう豊かな情操を養う。
家庭	・ 家庭での役割や家族の大切さに気付き、家庭生活をよりよくしていこうとする態度を養う。
体育	・ 健康な体と体力と気力の向上を図る。

外国語活動

言語や文化についての理解を深め、コミュニケーション能力の素地を養う。

総合的な学習の時間

自然体験や社会体験などを通して、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てる。

道徳教育の年間指導計画

道徳の時間の指導方針

- 道徳教育推進教師を中心とした指導体制を充実させる。
- 一人ひとりにおける道徳的価値の自覚を促し、道徳的実践力を育てる。
 - ・ 共感的理解を深めていくことを通して、道徳的心情を豊かにする。
 - ・ 人間としての弱さを自覚し、自己の在り方を問い続けることを通して道徳的判断力を育てる。
 - ・ 多様な体験活動を通して生まれる子どもたちの思いや願いを大切にしながら、道徳的実践意欲と態度の育成に努める。
- 各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を図り、豊かな体験活動が道徳の時間で内面化されるように工夫する。
- 協力的な指導や体験活動を生かした指導、児童が感動を覚えるような魅力的な教材の開発や活用など創意工夫ある指導を行う。
- 書いたり話し合ったりするなどの表現する機会を充実し、自分とは異なる考えに接する中で自分の考えを深め、自らの成長を実感できるように工夫する。

学級における指導計画

家庭との連携	地域社会との連携	近隣の学校との連携
学校と家庭の相互理解のもとに、児童の基本的な生活習慣の定着や健康や安全な生活を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全安心情報 ・ 家庭訪問、懇談 ・ PTAとの連携 ・ 学校、学年便りによる啓蒙 	地域の環境を生かした教育活動を充実させ、地域の人々との交流を通して思いやりや感謝の気持ち、郷土を愛する心を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域行事への参加 ・ 「育てる会」の活動 ・ 地域連携事業の推進「新光雪あかり村」等 	幼稚園、中学校、高校、近隣10校と連携し、道徳教育の一貫性を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10校交流会の開催 ・ 挨拶運動 ・ 新川高校職業体験の受け入れ ・ そうせい幼稚園との交流

特別活動

望ましい集団活動を通して、自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。

学級活動	学級や学校におけるよい生活づくりに参画し、自主的、実践的で健全な生活態度を育てる。
児童活動	よりよい学校生活づくりに参画し、協力して諸問題を解決しようとする態度を育てる。
クラブ活動	個性の伸長を図り、協力してよりよいクラブにしようとする自主的・実践的な態度を育てる。
学校行事	行事への参加を通して、集団への所属間や連帯感を深め、公共の精神を養う。

教育環境の充実・整備

校舎内外の環境整備に努め豊かな心を育む。

3 年間指導計画

		1年	2年	3年	4年	5年	6年
4	1		1-1 基本的な生活習慣	2-1 礼儀	1-1 自立節度	1-6 個性の伸長	1-4 正直誠実・明朗
	2	4-4 愛校心	2-1 礼儀	2-2 親切	2-1 礼儀	2-3 友情	1-6 個性伸長
	3	2-1 礼儀	4-2 勤労	1-1 基本的な生活習慣	2-3 友情	2-2 親切	1-2 勇気・努力
5	4	1-1 基本的な生活習慣	2-2 親切	4-4 愛校心	4-5 郷土愛	1-1 基本的な生活習慣	3-2 自然愛
	5	4-2 勤労	2-3 友情	2-3 友情	4-2 勤労	4-4 勤労・社会奉仕	3-1 生命尊重
	6	3-1 自然愛・動植物愛護	3-1 生命尊重	4-1 規則尊重・公德心	1-3 勤勉努力	1-2 希望・勇気・努力	4-3 役割・責任
6	7	1-2 勤勉努力	4-4 愛校心	1-4 正直誠実・明朗	2-2 親切	2-1 礼儀	2-1 礼儀
	8	2-4 尊敬・感謝	3-2 自然愛・動植物愛護	3-2 自然愛・動植物愛護	4-1 規則尊重・公德心	1-4 正直誠実・明朗	2-3 友情
	9	4-4 郷土愛	4-1 規則尊重・公德心	4-1 規則尊重・公德心	3-3 敬けん	3-2 生命尊重	4-1 規則尊重公德心権利義務
	10	4-1 公德心・規則尊重	1-4 正直誠実・明朗	4-6 愛国心・国際理解	4-6 愛国心・国際理解	4-7 郷土愛・愛国心	1-5 真理・創意進取
7	11	2-2 親切	1-5 個性伸長	1-2 勤勉努力	3-1 自然愛・動植物愛護	1-3 自由・自律	1-3 自由・自律
	12	2-1 礼儀	4-3 家族愛	4-5 郷土愛	4-1 規則尊重・公德心	3-1 自然愛	2-2 親切
	13	4-3 家族愛	4-1 規則尊重・公德心	4-1 規則尊重・公德心(情報モラル)	1-1 自律節度	4-2 規則の尊重・公德心	1-1 基本的な生活習慣
8	14	1-1 基本的な生活習慣	3-2 自然愛・動植物愛護	2-2 親切	1-5 個性伸長	2-3 友情	4-3 役割・責任
9	15	3-2 生命尊重	3-1 生命尊重	3-1 生命尊重	3-1 生命尊重	3-2 生命尊重	3-2 生命尊重
	16	1-1 基本的な生活習慣	4-5 郷土愛	2-1 礼儀	1-4 正直誠実・明朗	4-3 公正公平・正義	4-5 家族愛
	17	2-2 親切	2-2 親切	2-3 友情	2-3 友情・助け合い	4-1 役割・責任	4-8 国際理解
10	18	4-4 郷土愛	1-3 勇気	4-2 勤労	4-2 勤労	3-3 敬虔	2-2 親切
	19	1-5 正直誠実・明朗	1-2 勤勉努力	2-4 尊敬・感謝	1-2 勤勉努力	4-1 規則尊重・公德心・権利義務	4-1 尊重・公德心・権利義務
	20	3-3 敬虔	2-3 友情	3-2 自然愛・動植物愛護	2-3 友情	3-1 自然愛	2-3 友情
	21	2-3 友情	4-4 愛校心	1-5 個性伸長	4-4 愛校心	4-5 家族愛	4-6 愛校心
11	22	2-3 友情	1-3 勇気	1-3 勇気	1-1 基本的な生活習慣	4-1 役割・責任	1-5 真理・創意進取
	23	2-4 尊敬・感謝	2-4 尊敬・感謝	1-1 基本的な生活習慣	3-1 生命尊重	2-5 尊敬感謝	2-5 尊敬感謝
	24	3-3 敬虔	3-3 敬虔	3-1 生命尊重	3-1 自然愛	2-4 謙虚・寛容	4-8 国際理解
	25	3-1 生命尊重	2-1 礼儀	4-2 勤労	4-1 規則尊重・公德心	4-8 国際理解	4-7 郷土愛・愛国心
12	26	4-2 家族愛	1-2 勤勉努力	4-3 家族愛	2-1 礼儀	1-1 基本的な生活習慣	3-1 生命尊重
	27	1-3 勇気	4-1 規則尊重・公德心	3-3 敬虔	4-3 家族愛	4-7 郷土愛・愛国心	2-4 謙虚・寛容
	28	3-2 自然愛・動植物愛護	4-3 家族愛	1-1 基本的な生活習慣	1-1 自律節度	2-2 親切	4-4 勤労・社会奉仕
1	29	1-3 勇気	4-2 勤労(公正公平)	1-4 正直誠実・明朗	1-4 正直誠実・明朗	4-8 国際理解	1-1 基本的な生活習慣
	30	2-3 助け合い	1-4 正直誠実・明朗	3-1 生命尊重	3-1 生命尊重	1-2 希望・勇気・努力	4-4 勤労・社会奉仕
2	31	1-4 正直誠実・明朗	4-3 家族愛	2-4 尊敬・感謝	4-6 愛国心	4-3 公正公平・正義	3-2 自然愛
	32	3-2 生命尊重	1-1 基本的な生活習慣	1-2 勤勉努力	2-2 親切	4-4 勤労・社会奉仕	4-2 公正公平・正義
	33	2-2 親切	4-5 郷土愛	2-3 友情	1-4 勇気	1-5 真理・創意進取	3-3 敬虔
3	34	1-2 勤勉努力	2-4 尊敬・感謝	2-2 親切	1-5 個性伸長	1-6 個性の伸長	4-7 郷土愛・愛国心
	35	4-4 愛校心	3-3 敬虔	4-3 家族愛	4-3 家族愛	4-6 愛校心	1-2 希望・勇気・努力

4 道徳科の評価について

(1) 本校での道徳科の評価の取組

本校での今年度の校内研修において、道徳の学習を構想する際に大切にしたいポイントを3点（※1）、全教職員で共通理解を図った。

その3点とは、

- ① **ねらいを明確にした学習をすること**
- ② **主発問を構想した学習をすること**
- ③ **評価のために、何か残せるものを用いた学習をすること**

である。評価をするために、子どものどんな心情を養いたいのか、どんな実践意欲や態度を養いたいのか、どんな判断力を養いたいのか等、教師の「ねらい」を明確にした学習を構想することは必要不可欠である。

また、評価については授業中の子どもたちの発言、役割演技の時の様子、授業中に記した考え等を用いて総合的に評価するべきであるが、授業中の子どもたちの発言を記録するには限界があり、評価しきることは困難である。そこで本校では、ワークシート（※2）を活用して子どもたちの授業中の考えを残せるようにした。そのワークシートに子どもたちが書く部分は2か所あり、1回目は中心発問後、2回目は授業の最後の振り返りとして書くことが多い。子どもたちが書かせる目的が変わるので、教師の評価方法も変わる。

本校では、

- 1回目：多面的・多角的な視点から道徳的価値の理解を促す評価**
- 2回目：子どもたちの道徳性のさらなる発展を促す評価**

と区別している。1回目に子どもたちに書かせた考えは、授業中の机間指導で即時的に見取り、評価することが多く、1時間の学習の中で子どもたちが道徳的価値を一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させることができるような手立てとすることが多い。

また、2回目に子どもたちに書かせた考えは、授業後に見取り、評価することが多いので、子どもたちが道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深められるように励ましの評価になることが多い。教師が構想していた「ねらい」に子どもたちがしっかりと到達したのかを見取るとともに、子どもたちが学んだ道徳的価値を実生活に生かすことができるように励ますのである。このように、授業中の子どもたちの様子を評価することに加えて、上記したような2つの評価を組み合わせて行うことで、子どもたちが道徳的価値の理解を深め、道徳性をさらに発展させることができるように評価をしている。

※1 校内研修資料

今日の研修のまとめ

- ①ねらいを明確にした学習を！
- ②主発問を構想して授業をする！
(余裕があれば前後の展開も)
- ③評価のために、何か残せるものを！

一緒に頑張りましょう！

新光スタンダードの確立！！

※2 ワークシート

道徳

考えを書くシート 日付(/)

今日の資料 『 』

名前()

1. 課題に対する自分の考えを書きましょう。

2. 今日の学習の振り返りを書きましょう。

□ 振り返りの書き方
① 今日の学習の感想・疑問 ② そう思った理由 ③ これからの自分の生活に活かしたいこと

(2) 評価の実際

札幌市研究開発事業での授業公開において、5年生は「わたしは飼育委員」という教材で学習をした。内容項目は「C よりよい学校生活、集団生活の充実」で、この学習のねらいは、

委員会の仕事に不満をもっていた加菜が変容する姿を通して、自分の役割を果たすためにはどんなことが必要かを考えさせ、集団における自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする実践意欲と態度を育てる。

である。

中心発問に設定した、「どうして加菜は来た時よりも足取りが軽く感じられたのか」という加菜の変容の根拠に迫っていくことで、委員会の仕事の意義に気付き、集団での自分の役割を自覚し直すというような展開で学習を行った。この学習を例に(1)で述べた評価の区別をすると、この学習では、「委員会の意義に気付くという道徳的価値の理解を促す評価」と、「集団における自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする子どもたちの道徳性のさらなる発展を促す評価」をしたことになる。以下、本時での実際の子どもたちの記述をもとに具体的に説明する。

中心発問後のワークシートに1回目を書かせた時、※3のA子は、「自分」という視点で嬉しかったという考えを書いていた。机間指導の際に、この考えを評価し、価値付けながらも、「嬉しくなったのは自分だけかな?」と問い返しをした。そうすることで、道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やその時の心情を様々な視点から捉え、考えることができるようにしたのである。また、B子は、「1年生のために」という視点で考えを書いていた。そこで、「1年生だけのためかな?」と問い返しをした。そうすることで、違う立場や感じ方、考え方を理解することができるようにしたのである。本時ではこのようにして、多面的・多角的な視点から道徳的価値の理解を促すための評価をした。

また、振り返りの場面でワークシートに2回目を書かせた時、※4のC男は、「飼育委員の人が感謝してもらえてイイなと思った。自分が仕事をするので、全校に感謝されるような委員会にしたい。」と振り返りを書いていた。読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることが見取れる。また、D男は、「自分のため、他人のためになったら、進んで委員会の仕事をしたい。」と振り返りを書いていた。現在の自分自身を振り返り、自らの行動を具体的にイメージして理解しようとしていることが見取れる。これらの子どもたちの振り返りに、担任からの励ましの言葉を記入し、返すことで、学習で深めた道徳的価値を実践に移せるよう励まし、子どもたちのさらなる道徳性を発展させられるような評価をするのである。

このように、本校では、子どもたちが多面的・多角的な視点から道徳的価値の理解を促すための評価と、子どもたちの道徳性のさらなる発展を促す評価を学習の中で取り入れることで、子どもたちの道徳性を高めている。

※3 多面的・多角的な視点から道徳的価値の理解を促す評価

A子

二人の一年生が「すごい」と目をきらきらせながら言われたから、うれしくて飼育委員になってよかったと思った。あと自分がやっているのにがんばらせてうれしかった。

B子

最初はいやだったけど、2人の一年生はうさぎが好きだから、1年生のためにがんばらなくて思ったから。

※4 道徳性のさらなる発展を促す評価

C男

飼育委員の人が感謝してもらえてイイなと思いました。これからは自分の仕事をしっかりと全校に感謝されるような委員会にしたいと思いました。

D男

もし、後めたいにとかあったら、それのためになっているかも考える。自分のため、他人のためになら、進んでその仕事をやりたい。と思った。これからほかの人で、他人のためになっているなら、できる限りした。仕事 思った

○振り返りの書き方
① 全日の学習の感想、疑問 ② そう思った理由 ③ これからの自分のために何かしたいこと

5 研究のまとめ

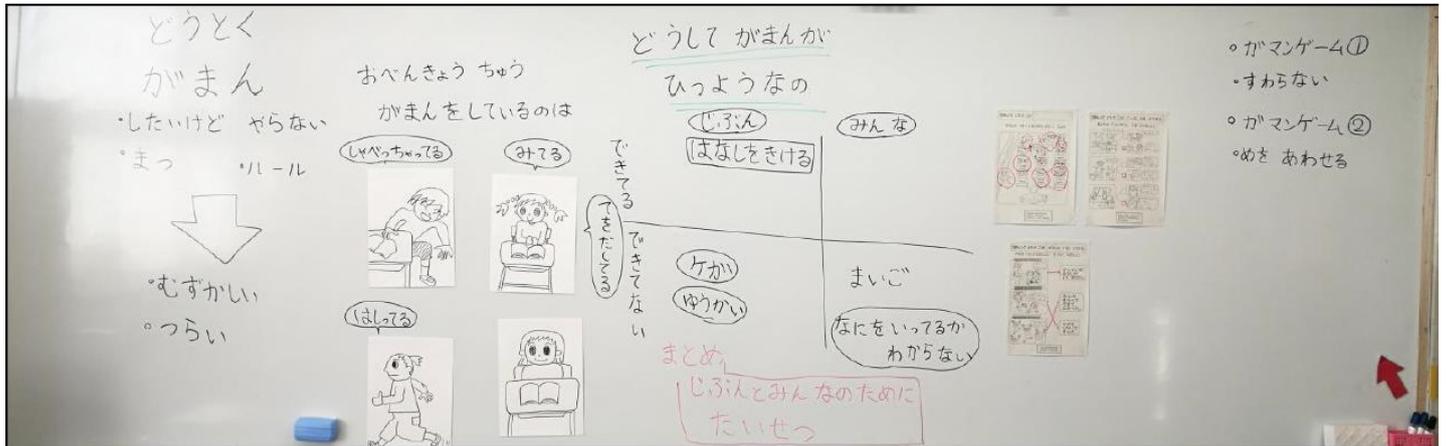
(1) 各学年授業公開の実際と成果

特別支援学級の実践 授業者：小峯 彰太

教材名：『がまんってどういうこと』 内容項目：A 善悪の判断・自律・自由と責任

本時のねらい

目に見えない『がまんをする』ということ、ゲームを通して体験したり、具体的な場面を絵で表したりして、我慢というのはどういうことかを考えさせ、場の状況を理解し、どのように行動することが自分や集団にとってよいのかを判断し、自分の人生と集団生活の充実に努めようとする実践意欲と態度を育てる。



子どもたち個々の実態を考慮し、動作化を多く取り入れたり、お話ではなく絵を使ったりして子どもたちの興味・関心を惹きつけ、追究意欲を持続させられるような学習展開を構想した。本時では、「どうして、がまんは必要なのかな」ということを考えることを通して、子どもたちは「自分や、みんなの生活をよりよくするためだ」ということに気づき、道徳的価値の理解を深めることができた。

1年生の実践 授業者：幅崎 菜穂

教材名：『やめなさいよ』 内容項目：A 善悪の判断、自律、自由と責任

本時のねらい

間違ったことを行った友達を正す「わたし」を描いた物語を通して、正しいことを進んで行くとどんな気持ちになるかを考えさせ、よいことと悪いことを判断し、正しいと思ったことは勇気をもって行おうとする判断力と心情を育てる。



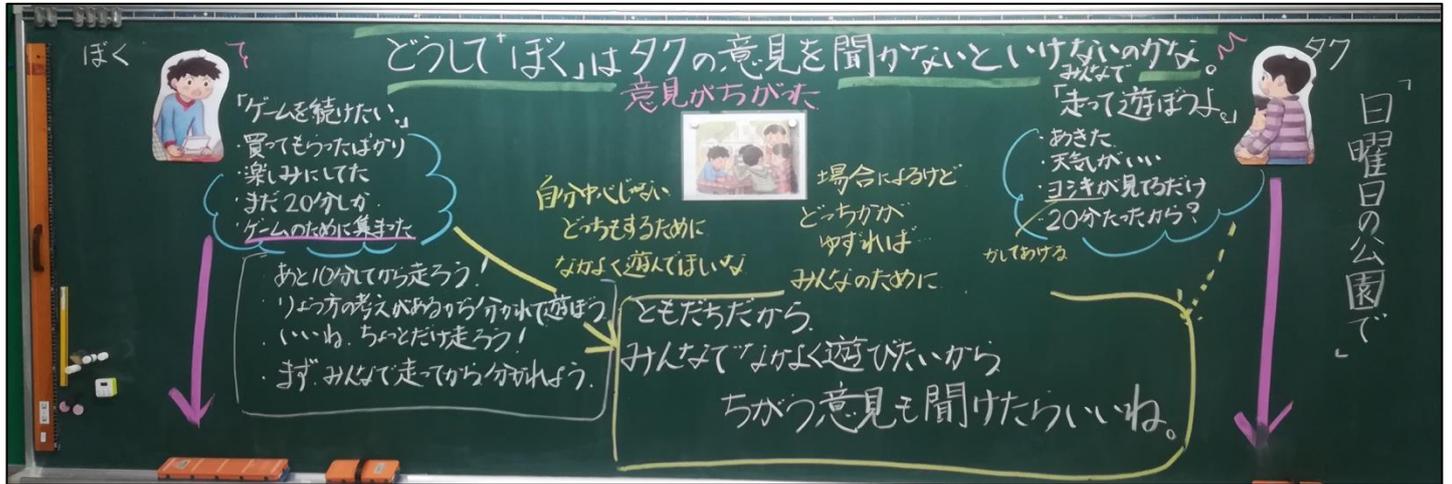
低学年の子どもたちが教材の内容を理解し、整理できるように挿絵を活用した。文章を読むのが難しい子どもたちも、挿絵を見てお話の流れをつかんだり、登場人物の心情を考えたりすることができた。子どもたちが経験したことがあるような具体的な場面や行為の想定から、具体的な言葉がけを考えていく中で、子どもたちは「自分だったら…」と考えを深めることができた。「間違ったことを正すことは大切」「でも、友達だったら言えるかな」というような葛藤を乗り越え、子どもたちは「正しいことを伝えるともっと友達と仲良くなれるんだ」という道徳的価値の理解を深めることができた。

3年生の実践 授業者:石崎 貴大

教材名:『日曜日の公園で』 内容項目: B 相互理解、寛容

本時のねらい

休日に公園で集まり、何をして遊ぶのかで意見の食い違いが起きてしまうタクと「ぼく」の姿を通して、自分と違う意見も大切にするためには、どのようなことを心がけるとよいかを考えさせ、それを実践していこうとする意欲と態度を育てる。



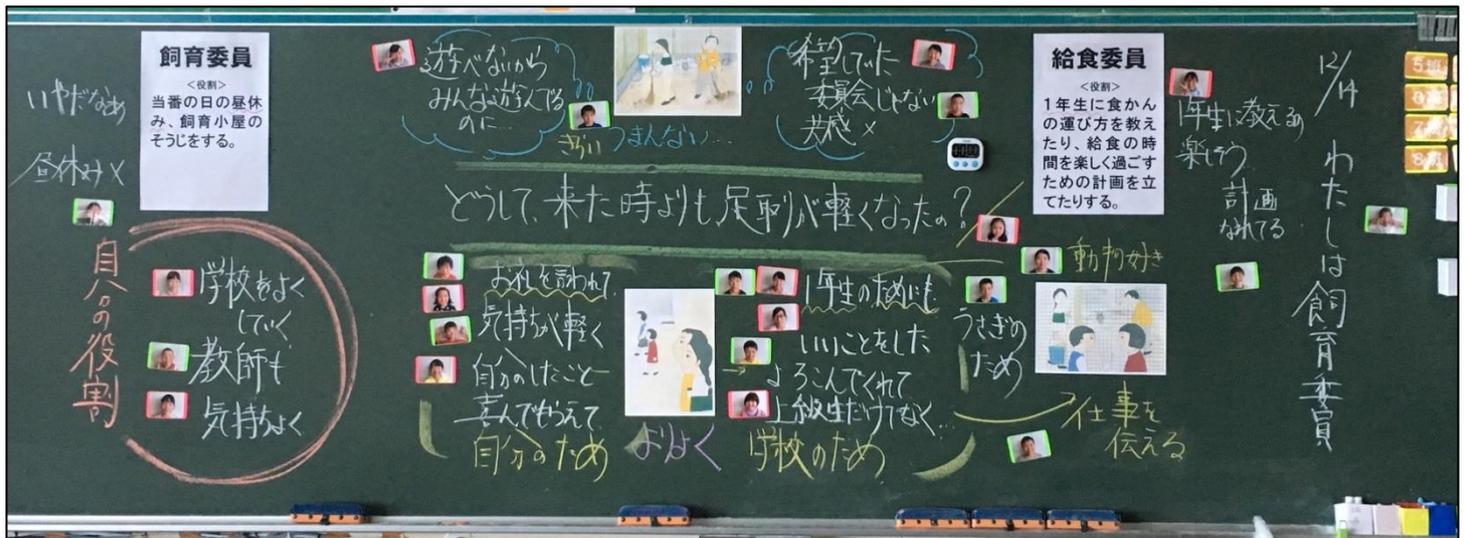
登場人物である「ぼく」と「タク」の心の距離を表し、どうすれば仲良く遊べるか、ということを考えることで、心の距離の縮まりを板書で表すという板書構成にした。「タクの言い分もわかるし…」「でも、「ぼく」の言い分もわかるんだよな…」と、どっちの言い分も理解した上で、「ケンカにならないようにするには、「ぼく」はどのように答えればよかったのかな」という課題をつかみ、追究することができた。この学習を通して、「自分と違う意見を大切にすることで、友達と楽しく遊べるんだ」という道徳的価値の理解を深めることができた。

5年生の実践 授業者:吉田 修平

教材名:『わたしは飼育委員』 内容項目: C よりよい学校生活、集団生活の充実

本時のねらい

委員会の仕事に不満をもっていた加菜が変容する姿を通して、自分の役割を果たすためにはどんなことが必要かを考えさせ、集団における自分の役割を自覚し、主体的に責任を果たそうとする実践意欲と態度を育てる。



最初は飼育委員になって「自分だけ損をしているような気持ち」だった加菜の気持ちが、最後は変容しているということに焦点を当て、子どもが問題意識をもって追究できるように学習展開を工夫した。「自分のしたことで1年生が喜んでくれた」「自分だけじゃなくて、上級生もだよ」「学校がよくなったってことだよ」と、子どもたちは委員会の仕事は、「自分の気持ちも、学校や学校にいる人の気持ちをよりよくするんだ」という道徳的価値の理解を深めることができた。また、自分の生活に置き換えて考えた時には、「みんなが気持ちよくすごせるように委員会を頑張りたい」「自分の役割をしっかりと果たしていきたい」と発言するなど、主体的に自分の責任を果たそうとする実践意欲をもつことができた。

(2) 今後の課題

今回の研究開発事業の授業公開では教科書の教材を活用させていただいたが、各教材のねらいである道徳的価値の理解を促す中で、子どもたちの人間らしい考えをどう表出させていくか、学習展開の中での教師のかかわりがとても重要になってくると感じた。「道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習」にするために、どのように教科書の教材を扱い、学習展開を構想していくか、より研究が必要である。

(3) 研究開発事業を終えて

札幌市研究開発事業「道徳教育の充実」に係る実践研究の取組を通して、本校の道徳教育をより一層充実したものにできた。特に、授業者だけで設けた授業検討では、本時での子どもたちの思考の流れを想定し、どう問題意識をもたせ、追究意欲を高めるかというような授業構成の検討や、子どもの考えを構造的に位置付ける板書構成の検討など、1時間の学習の細部までこだわって授業を考えることができた。また、その取組の様子を学年、ブロックの先生方に伝えることで、全教職員の道徳の学習への意識が高まり、研究への協働性がより大きなものとなった。

来年度は道徳の教科化1年目の年であるが、今年度の取組で得られた成果と課題をしっかりと振り返りながら、本校の道徳教育をよりよいものにしていきたい。